

奈良県五條市（国内 16 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要（令和 2 年 12 月 6 日実施）

令和 2 年 12 月 6 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、川がU字型に湾曲した場所の先端付近に位置し、付近は竹林や田畑に囲まれている。
- ② 農場は川から約 100m の距離に位置していたが、調査時にカモ類は認められなかった。農場の周囲には複数のため池があり、約 800m の距離にあるため池ではマガモ 18 羽、キンクロハジロ 18 羽、オシドリ 6 羽等の 50 羽以上、約 900m の距離にあるため池ではマガモ 7 羽等の 8 羽、約 1km の距離にあるため池ではマガモ 15 羽等の 20 羽以上の水鳥類が確認された。
- ③ 当該農場には、ウィンドレス鶏舎が 3 棟あり、このうち 1 棟は長辺方向に 3 つの鶏舎が接続した構造であり、発生鶏舎はこの中央の鶏舎であった。発生時には、発生鶏舎の隣の 1 鶏舎を除きすべての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 管理人によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、11 月以降 0~4 羽程度で推移していた。12 月 4 日には 7 羽の死亡鶏が確認されたが、鶏舎内で散在していたことから、異常とは感じなかったとのこと。
- ② 12 月 5 日朝、30 羽の死亡鶏が確認され、このうち 8 羽が 1 ケージ内でまとまって死亡していたことから家畜保健衛生所に通報したとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では 5 名の従業員が働いており、管理人によると、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行っているとのこと。
- ② 管理人によると、従業員が担当する鶏舎は厳密には決まっておらず、すべての従業員が発生鶏舎を含むいずれの鶏舎においても作業する可能性があるとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人によると、従業員は農場専用の作業着と長靴を使用しており、鶏舎毎の長靴の交換及び踏み込み消毒を実施していたとのこと。ただし、鶏舎毎の手指消毒は実施しておらず、手袋の交換も行っていなかったとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 飼養鶏への給与水は、消毒した地下水を使用しており、くみ上げ後、給水まで外気への開放部分はなく、野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ④ 鶏糞は除糞ベルトで、鶏舎外へ搬出され、農場内のコンポストで堆肥化されている。なお、鶏糞処理施設には防鳥ネットは設置されていなかった。
- ⑤ 健康観察時に回収した死亡鶏は、鶏糞とともにコンポストにて堆肥化している。
- ⑥ 管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。
- ⑦ 管理人によると、11 月上旬以降、鶏舎周辺部には消石灰を散布し、消毒を行っているとのこと。
- ⑧ 管理人によると、車両が農場敷地内に入出入りする際、入口に設置された消毒ゲートによる消毒を行っているとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎の鶏舎構造は、鶏舎奥側の壁面に設置された換気扇から排気し、入口側の

壁面に設置されたフィルターから入気するタイプの鶏舎であった。換気扇の外側には開閉可能な板が設置されており、換気扇が停止する際にはこの板が閉まる。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 管理人によると、農場敷地内ではカラスやネコを見かけることがあるとのこと。調査時にもネコが確認された。
- ② 発生鶏舎の壁面には小型の野生動物が侵入可能な穴があった。
- ③ 除糞ベルトが鶏舎外に出る開口部は板で閉じられており、管理人によると、集卵用のバーコンベアの開口部は、運転時以外はシャッターを閉じているとのこと。
- ④ 管理人によると、物音等により鶏舎内にネズミがいることは認識していたが、特段の被害がないことから、定期的なネズミ対策は実施していないとのこと。調査時には、ネズミやネコのものと思われる糞が鶏舎内で確認された。